

梅雨のない北海道ですが、年々雨が多くなって来ているようです。この時期といえば積丹のウニがおいしくて有名ですので、先月初めて行ってまいりました。

札幌からは小樽・余市を過ぎて1時間程で積丹半島に到着。ネットで有名な『みさき』さん、『中村屋』さんを覗いてみましたが、どちらも30組は待っている状況でしたので諦めて町営のグリーンランドへと移動し、そちらの食堂へ行きました。前日は漁が出来ず入荷しなかったようですが、その日は漁に出られたようで、ようやく積丹の生ウニ丼を食べることが出来ました。残念ながらパフウニではなくムラサキウニでしたが、生ウニは甘くて最高でした。食後の運動を兼ねて半島先の神威岬の突端まで行こうと遊歩道を歩くこと25分、ついに到着しました。この時期の神威岬は『シャコタンブルー』と呼ばれる程に海が青いのですが、先日までの雨の影響で本物のシャコタンブルーには出会えず、残念でした。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

会津若松に行ってきました。会津といえば、まず思い浮かぶのは幕末戊辰戦争での白虎隊ですね。

会津若松城(鶴ヶ城)や飯盛山など、白虎隊にまつわる名所がたくさんあります。やはりここへ来たからにはそれらに行くべきか迷いましたが、今回はやめて、会津エリア南部の下郷町にある大内宿に向かいました。

そこは福島南部の山間部にあり、約400年前の江戸時代に日光から会津につながる会津西街道沿いの宿場町として、参勤交代で江戸に向かう大名などが利用し栄えたそうです。茅葺屋根の民家が立ち並び、江戸時代を感じられるというのが売りですが、本当にそう感じる観光地でした。

また、もう一つの目玉が『ねぎそば』です。ねぎを使ってそばを食べるという一風変わった名物で、ちょっと食べづらいですが、お蕎麦も美味しく(お蕎麦は温かいものよりも冷たい方がお勧めとのこと)、宿場の中で食べるのでタイムトリップ感と合わせて二重に味わいがあるとお勧めですね。

夏場の大内宿も味わい深いのですが、冬場の雪化粧をした茅葺屋根の大内宿もまた見事だろうと想像出来るほど完成度の高い観光名所でした。次は冬場に行ってみたいかな。それから会津若松城へも行きたいですね。

東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-

Vol.210
Aug.2019
KOYORAD

暑い季節がやって来ました。今年は冷夏かと予想されていましたが猛暑がやって来ましたね。8月は広島、長崎に原爆を落とされた原爆の日があります。原爆の被害の大きさや悲惨さを後世に伝える為、広島平和記念資料館がありますね。その資料館が4年半ぶり、今年4月25日に本館リニューアルオープンしました。

今回初めて行きましたが想像以上だったのが見学者の多さ。海外からの旅行者も含め、数多くの方が来館されていました。壁一面の写真には原爆ドームを中心に完全に破壊された街が再現され、映像でも原爆の落ちる前の街から落ちてからの街への変貌ぶりを見ることができ、核兵器の恐ろしさを感じました。被爆者の衣服や自転車、写真など多くの遺品も展示され、ガラス瓶が溶けてグニャグニャになった残骸などは、一瞬で高温になったのだと思うと被害者の悲鳴が聞こえてきそうでした。

重い文章になってしまいましたが、世界遺産の原爆ドームを含め海外の方々が多く見に来られているという事は、同じ過ちを犯してはダメだという事が広がっている証だといいなと思いました。

一度は見ておく価値があると思いました。



大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は愛知県常滑市にある、『とこなめセラモール』を紹介いたします。ここは『とこなめ焼卸地協同組合』が運営する陶磁器のショッピングモールです。広さは50,000㎡あり、12店舗の焼き物専門店が軒を連ねています。

常滑は常滑焼などが有名ですが、それぞれのお店には地産の常滑焼だけでなく東海地区を中心とした他産地の陶磁器が各店舗で展示・販売されています。

陶芸作家や常滑焼伝統工芸士が在籍するお店などもあり、販売されている商品の価格もピンキリで様々です。作家の方々が作られたものは、やはり高額です。ちなみに私は、お手ごろ価格のカレー皿とお猪口を購入しました。

また、ギャラリーや陶芸体験コーナーを設置している店舗や、お茶・団子などを常滑焼で飲食できる店舗もありました。

若いころは陶磁器などほとんど興味ありませんでしたが、様々な色・デザインのものを見学するだけでも楽しいと思えるようになりました。

皆様方も一度訪れてみてはいかがでしょうか。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

夏本番で慌ただしい毎日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。食欲が無くなることもあります、しっかり食べて繁忙期を乗り切りましょう。

さて、先日たまたま家族全員が休日で、誰も予定が入っていないということもあり、福岡県八女市へ行ってきました。まずは日ごろの疲れを癒すため、日帰り温泉が堪能できる『池の山荘 星の温泉館きらら』へ直行です。「親子3人で背中を流すことは何年ぶりかな・・・」などと考えたことはさておき、景色のキレイな露天風呂を満喫。偶然かもしれませんが、その日は人も少なかつたため、親子3人でゆっくりとした時間を過ごせました。

もう一つ行きたい場所があったので、さっさと昼食を済ませていざ出発！八女市と言えば、玉露の三大産地としても有名で伝統本玉露の生産量が日本一。また、九州でお茶と言えば八女茶や知覧茶です。その八女茶の茶畑である『八女中央大茶園』から見える景色は一見の価値有り!?車を走らせること約30分で茶園の展望台に到着しました。その場所から見える景色は島原半島から佐賀市までをキレイに見ることができ、また、下を見渡せば一面に広がる茶畑と、まさに絶景!!!素晴らしい景色でした。

子供が大きくなるとなかなか共に行動する機会が少なくなりますが、時間を見つけて家族と一緒に過ごす時間を増やしたいと思った今日この頃でした。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

ジャカルタ付近では、地下鉄、電車の線路、高速道路などの工事を2年前から同時にやり始めています。

以前はジャカルタからコーヨーラドの工場まで30~40分で行けましたが、今は2~3時間かかります。ジャカルタから東方面へ向かう高速道路を2階建てにするため、工事用のクレーン、セメント、砂利、鉄骨などを運んだトラックが高速道路のど真ん中に駐車しており、渋滞の原因となっているからです。

2017年から工事が開始され、2年で完了する計画だと聞いていましたが未だに終わっていません。仕事のない土曜日、日曜日でも高速道路の渋滞はとて激しいです。会社から家まで裏道を通って通常40~50分ですが、高速道路が大渋滞しているせいで多くの車が高速から降りて同じ裏道を通るので、結果的に裏道のほうがオートバイの混雑でもっとも渋滞になり、2~3時間かかってしまう場合がよくあります。

渋滞を少しでも避けるため、最近『Waze』や『GoogleMap』を使って渋滞のない道を探しています。ただWazeもGoogleMapも、その時々で実際に通ってみると大渋滞であることがよくあります。

2年間も渋滞に巻き込まれ続ける日を過ごし、本当に我慢の限界ですが、政府のプロジェクトに少しでも協力するため辛抱するしかありません。最近ではインドネシアの半数以上の人々が、今の渋滞に対するの対策、つまり今の道路工事が本当に渋滞を減らせる・無くせるものなのか疑問に思っています。高速道路の工事完了はいつになるのでしょうか?2019年は無理で、2020年?2021年?ああ...本当に分かりません。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

~筋肉痛が大変ですが~

野球やランニング、そしてたまに行くゴルフなど週末には運動を行うよう心がけています。海外駐在員の生活はやはり健康管理と体力づくりが大切で、私も毎週仲間と楽しく汗をかいています。

さらに半年ほど前に誘われて始めたのが『羽毛球』、バドミントンです。平日の夜、仕事の帰りに行くことが多いのですが、10面ある体育館のコートは夜でもいつも一杯で、中国でのバドミントン人口の多さに驚きます。若い人、中高年、さらに少年少女までまさに老若男女が楽しくプレーする様子は仕事の疲れを癒してくれます。

人数が半端だったりすると隣のコートの見知らぬ人と一緒に打ち合い、自然と打ちとけることができ、バドミントン用語の中国語も覚えたりします。私は全くの素人ですが、上手なプレーヤーと打つといろいろと教わることもでき、始めた当初よりはいくらか進歩もした...と思います。広いコート内でシャトルを追う動きは思っていた以上にハードです。コート内で打つコースや強弱などを考える点は実に戦略性に富んだ競技で最近また新たに欲しかったラケットを買ってしまいました。翌日の筋肉痛が大変ですが、それもまた心地よいものです。たっぷり汗をかいた後のビールも最高です。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

日本では梅雨もそろそろ終わり、夏本番に入っている頃でしょうか。

カリフォルニアでは年末年始に記録的な雨量の日が続きましたが、それ以降は一滴も降っていません。週末のゴルフも日差しの程度くらいしか気にならない、ある意味贅沢な毎日です。

さて、ここアメリカでは先日、不法滞在者(過去に犯罪などで強制退去処分を受けた者)の一斉捜索が行われました。トランプ大統領の強制的なやり方には民主党を中心に多くの批判が出ています。

その一方で、マスコミにはあまり紹介されませんが、今まで誰も取り締まられなかった無法行為に対してアメリカの法律をまっとうに運用しており、移民自体に反対しているわけではなく、亡命と称して法律を犯してまでも不法に越境しようとする人々を防ごうとしているだけだと賞賛する人々もたくさん存在するのが事実です。

国境沿いに壁を建設する計画も、最初に聞いたときはふざけた大統領だという意見が大半だったようですが、越境してくる不法移民の扱いを考えると壁で未然に防ぐほうが人道的ではないかという意見も多い様です。

もともとアメリカは移民で成り立ってきた国です。今までも移民をどの国よりも多く受け入れることによって経済的にも発展してきました。今も移民、亡命者、人種差別など色々な問題を抱え、毎日何らかのニュースが流れています。

日本も少子高齢化社会が進み、移民の受け入れを真剣に考える時期に来ているのではないのでしょうか。アメリカやヨーロッパ諸国と違い移民の受け入れの経験は少ないですが、しっかりと受け入れ体制を整え、移民の方たちと安心して暮らせるようにしたいですね!

KCS(アメリカ)(COO:板垣 仁志)

~安い食料品 VS 時間のかかる渋滞~

渋滞で費やされる時間を考慮せずに、節約できる金額だけを見ている人がいます。彼らにとって時間はそれほど重要ではなく、無駄にしても構わないものなのでしょう。

シンガポールはマレーシアで2番目に大きい都市(ジョホール州)と隣接しており、どちらの市民も互いの都市を利用しています。朝、マレーシア人はシンガポールに勉強や仕事をしに来て、夕方または夜に再びマレーシアに戻ります。シンガポール人はというと、ビジネスのためマレーシアに行く人もいますが、ほとんどの人は週末に安い食料品を買うために出かけています。

平日と比較すると週末の渋滞は更にひどくなり、入国審査も含め数時間並んでやっと通過することができます。それでも週末には多くの人が節約のためにマレーシアを訪れます。一日がかりになるため、朝出発して戻るのには夜になります。これによってシンガポールで買い物をするよりも30%節約できる可能性があります。

時間とお金どちらを選択するかは、もちろん人それぞれ異なります。低所得者にとっては少しでも節約する必要があり、こういった努力も理解できます。しかし、お金に余裕があるにも関わらず節約のために渋滞で時間を浪費している場合、時間の使い方について考え直してみるべきではないでしょうか。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

~桉の木に毛虫の大群~

この夏、オランダで毛虫の大群による被害がありました。毛虫たちは主に桉の木に大きな巣を作って住んでいます。特徴としては、側面が明るい灰色をしており、普通の毛虫よりも長い毛が生えています。5月に生まれ、6月に成長期を迎え、木の葉を食べて育ちます。

桉の木には前々から毛虫たちが住み着いていましたが、去年、その数はますます増加してこれまでの3倍にもなりました。数が多すぎて、私たち人間が生活するうえでも非常に危険な状態です。何故かという、その毛虫たちは『terrible stinging hairs(酷い刺すような毛)』と呼ばれる、長い針のような毛を持っているからです。毛虫1匹の体に約70万本もの毛が生えています。脅威を感じた時にこれらの毛を敵に向かって撃ったり、風によって広げたりできるのです。

人間がこの毛に触れると、激しい痒みを伴う発疹が出てしまいます。また、毛が皮膚に入り込むことによって重度の炎症を引き起こしたり、喘息反応が出たりする可能性もあります。

オランダの森や道路沿いにはたくさんの桉の木があり、大量の毛虫駆除は各市町村にとって大きな問題になっています。人々の健康被害を防ぐために毛虫が発生したエリアは閉鎖されており、今も立ち入りが許可されていません。

KIO(オランダ)(Jan van Mier)